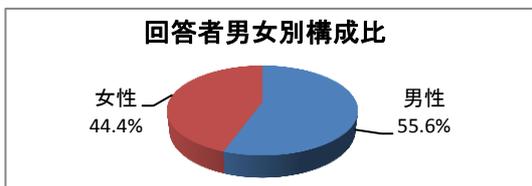


# 平成27年度第2回モニター定期アンケート調査集計結果

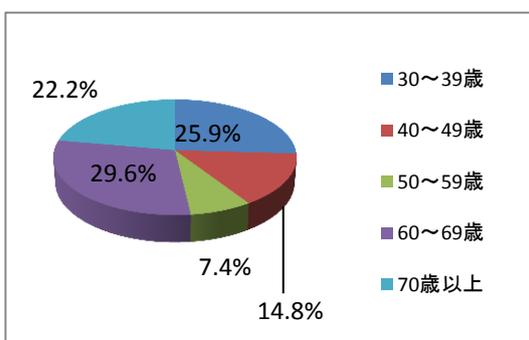
<平成27年10月実施>

## 【回答者数、回答率、構成比】



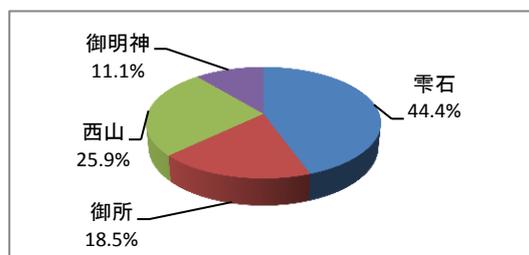
性別	モニター数	回答数	回答率	回答者構成比
男性	18人	15人	83.3%	55.6%
女性	13人	12人	92.3%	44.4%
計	31人	27人	87.1%	100.0%

## 【回答者年齢層別構成比】



年齢層	男性	女性	計	構成比
20~29歳	0人	0人	0人	0.0%
30~39歳	3人	4人	7人	25.9%
40~49歳	3人	1人	4人	14.8%
50~59歳	2人	0人	2人	7.4%
60~69歳	4人	4人	8人	29.6%
70歳以上	3人	3人	6人	22.2%
計	15人	12人	27人	100.0%

## 【回答者地区別構成比】



地区	男性	女性	計	構成比
雲石	9人	3人	12人	44.4%
御所	2人	3人	5人	18.5%
西山	3人	4人	7人	25.9%
御明神	1人	2人	3人	11.1%
計	15人	12人	27人	100.0%

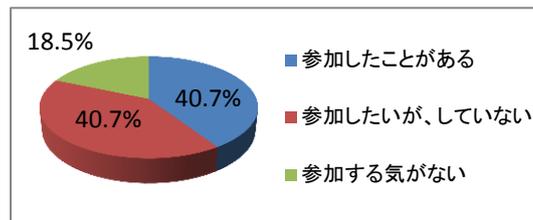
## 【調査テーマ】

### 『雫石よしゃれ祭について』

雫石よしゃれ祭は昨年度まで毎年8月15日に開催していましたが、お盆時期は 祭への参加が難しいという意見が多かったことから、今年度は8月9日(日)に開催しました。そこで、よりたくさんの町民、観光客に参加、観覧して頂くための参考として、皆様のご意見をお聴きするものです。

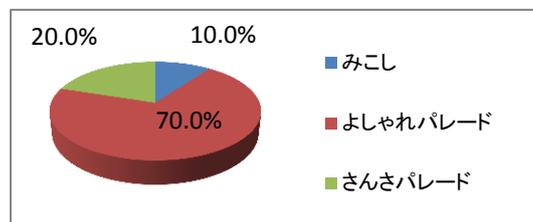
#### 問1. あなたは、よしゃれパレードに踊り手として参加したことがありますか。

項目	回答数	構成比
参加したことがある	11人	40.7%
参加したいが、していない	11人	40.7%
参加する気がない	5人	18.5%
計	27人	99.9%



#### (問1「参加したことがある」の内訳)

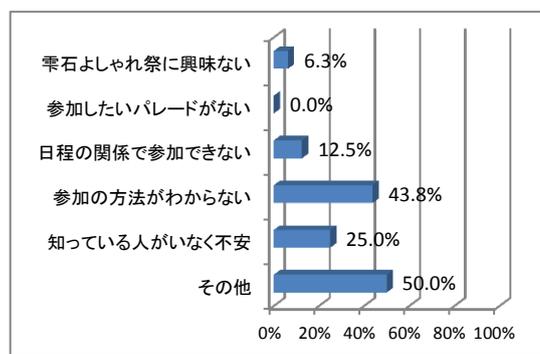
項目	回答数	構成比
みこし	1人	10.0%
よしゃれパレード	7人	70.0%
さんさパレード	2人	20.0%
計	10人	100.0%



「参加したことがある」「参加したいが、していない」が共に40.7%で最も高い割合となっている。ただし、「参加する気がない」も18.5%と2割近い割合となっている。

#### 問2. 問1で2又は3と答えた方にお聞きします。参加しない理由は何ですか。(複数回答可)

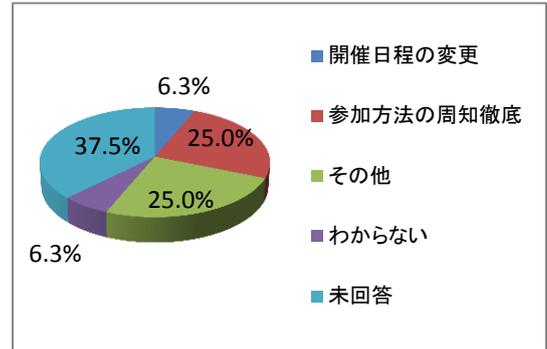
項目	回答数	構成比
雫石よしゃれ祭に興味がない	1人	6.3%
参加したいパレードがない	0人	0.0%
開催日程の関係で参加できない	2人	12.5%
参加の方法がわからない	7人	43.8%
知っている人がいないので不安	4人	25.0%
その他	8人	50.0%
計	22人	



「その他」と回答した割合が50.0%で最も高く、次いで「参加の方法がわからない」の43.8%となっている。

問3. 問1で2又は3と答えた方にお聞きします。よしゃれ祭がどのようになれば参加しますか。

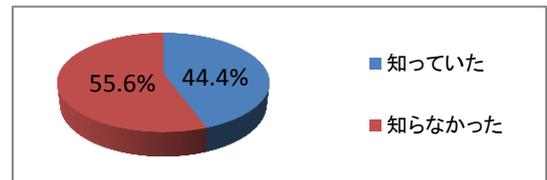
項目	回答数	構成比
パレード内容の充実	0人	0.0%
開催日程の変更	1人	6.3%
参加方法の周知徹底	4人	25.0%
その他	4人	25.0%
わからない	1人	6.3%
未回答	6人	37.5%
計	16人	100.1%



「参加方法の周知徹底」「その他」が共に25.0%で最も高い割合となっている。ただし、未回答が37.5%と1/3以上あった。

問4. よしゃれパレード（みこし・さんさを除く）に、一般の方も踊り手として参加できることを知っていましたか。

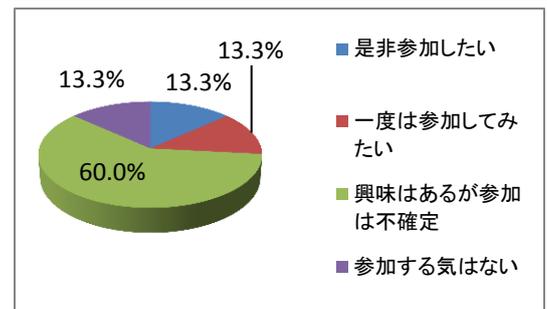
項目	回答数	構成比
知っていた	12人	44.4%
知らなかった	15人	55.6%
計	27人	100.0%



「知っていた」が44.4%、「知らなかった」が55.6%で、「知らなかった」の方が多い結果となっている。

問5. 問4で2「知らなかった」と答えた方にお聞きします。よしゃれパレード（みこし・さんさを除く）の参加方法がわかれば、参加したいと思いますか。

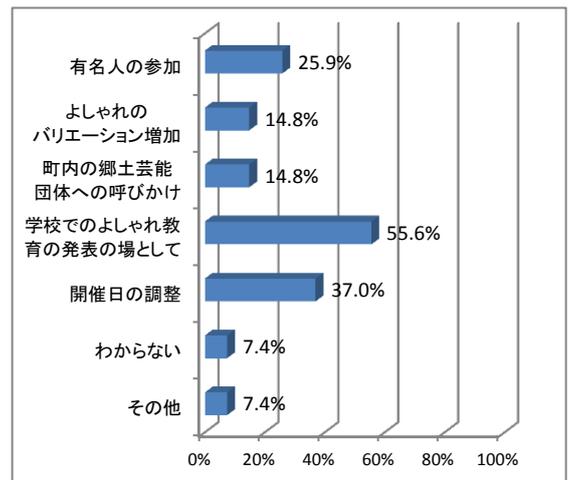
項目	回答数	構成比
是非参加したい	2人	13.3%
一度は参加してみたい	2人	13.3%
興味はあるが参加は不確定	9人	60.0%
参加する気はない	2人	13.3%
その他	0人	0.0%
計	15人	99.9%



「興味はあるが参加は不確定」と回答した割合が60.0%で最も高い割合となっている。

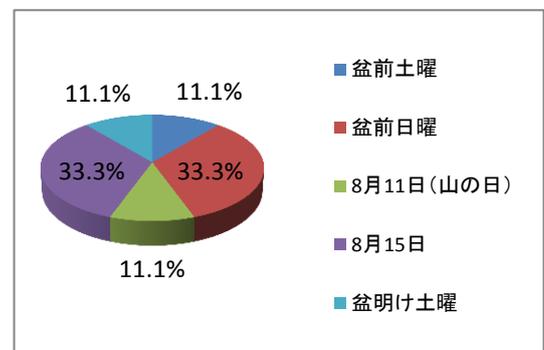
問6. よしやれパレード（みこし・さんさを除く）に、踊り手として参加したくなる、または参加者を増やすには次のどれが大切だと思いますか。

項目	回答数	構成比
有名人の参加	7人	25.9%
よしやれのバリエーションの増加	4人	14.8%
町内に多くある郷土芸能団体への呼びかけ	4人	14.8%
町内の学校での、日頃のよしやれの教育及び発表の場としてよしやれパレード開催	15人	55.6%
開催日の調整	10人	37.0%
わからない	2人	7.4%
その他	2人	7.4%
計	44人	



(問6「開催日の調整」の内訳)

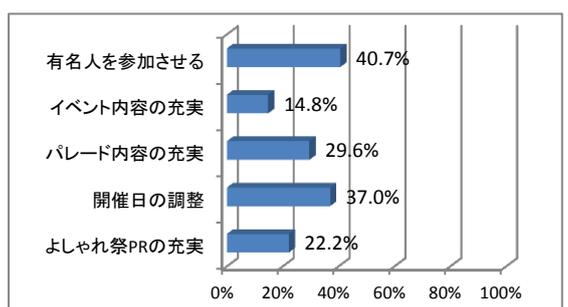
開催日の調整	回答数	構成比
盆前土曜	1人	11.1%
盆前日曜	3人	33.3%
8月11日（山の日）	1人	11.1%
8月15日	3人	33.3%
盆明け土曜	1人	11.1%
盆明け日曜	0人	0.0%
計	9人	99.9%



「学校での日頃のよしやれ教育及び発表の場としてよしやれパレード開催」が55.6%で最も高い割合となっており、次いで「開催日の調整」の37.0%となっている。

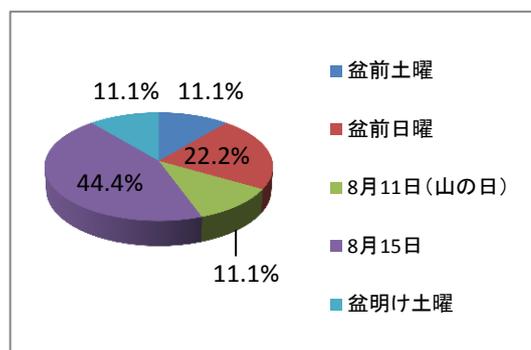
問7. よしやれ祭を見に行きたくなる、またはよしやれ祭の観覧者を増やすには次のどれが大切だと思いますか。

項目	回答数	構成比
有名人を参加させること	11人	40.7%
イベント内容の充実	4人	14.8%
パレード内容の充実	8人	29.6%
開催日の調整	10人	37.0%
よしやれ祭PRの充実	6人	22.2%
計	39人	



(問7「開催日の調整」の内訳)

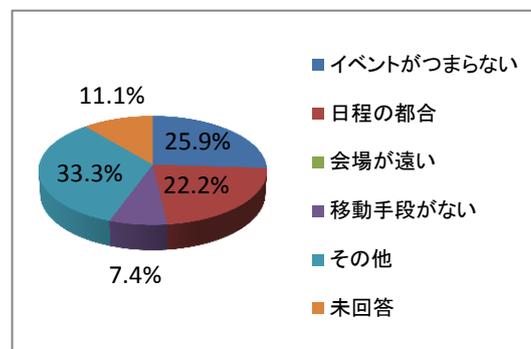
項目	回答数	構成比
盆前土曜	1人	11.1%
盆前日曜	2人	22.2%
8月11日(山の日)	1人	11.1%
8月15日	4人	44.4%
盆明け土曜	1人	11.1%
盆明け日曜	0人	0.0%
計	9人	99.9%



「有名人を参加させること」が40.7%で最も高く、次いで、「開催日の調整」が37.0%となっている。

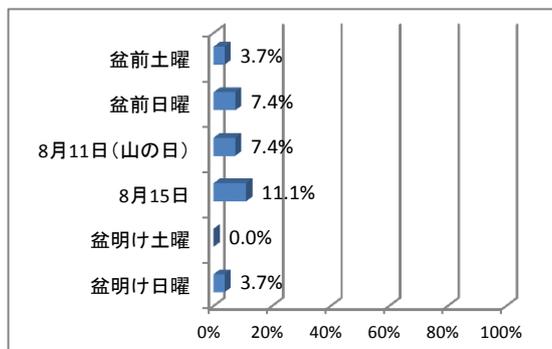
問8. あなたがよしゃれ祭を見に行かないとしたら、どのようなことが原因となりますか。

項目	回答数	構成比
イベントの内容がつまらない	7人	25.9%
日程の都合(参加できない日程)	6人	22.2%
会場が遠い	0人	0.0%
移動手段の確保ができない	2人	7.4%
その他	9人	33.3%
未回答	3人	11.1%
計	27人	99.9%



(「日程の都合」の内訳)

項目	回答数	構成比
盆前土曜	1人	3.7%
盆前日曜	2人	7.4%
8月11日(山の日)	2人	7.4%
8月15日	3人	11.1%
盆明け土曜	0人	0.0%
盆明け日曜	1人	3.7%
計	9人	99.9%



「その他」が33.3%で最も高く、次いで、「イベントの内容がつまらない」25.9%、「日程の都合」22.2%の順となっている。

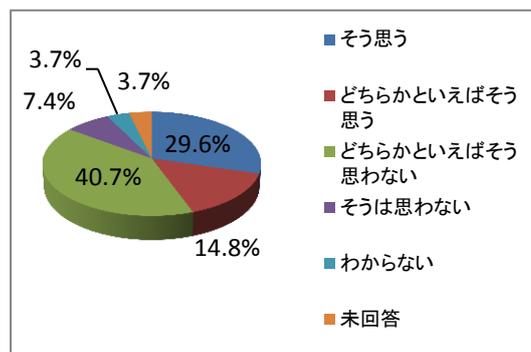
## 【調査テーマ】

### 『男女共同参画について』

町では平成26年度に「第2次男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け、取り組みを進めています。また、平成27年9月4日に、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」等が施行されたことから、男女共同参画や女性の職業生活に関する町民の意識を把握するためアンケートを実施するものです。

#### 問9. 家庭、地域社会、職場などにおいて、男女が対等なパートナーになっていると思いますか。

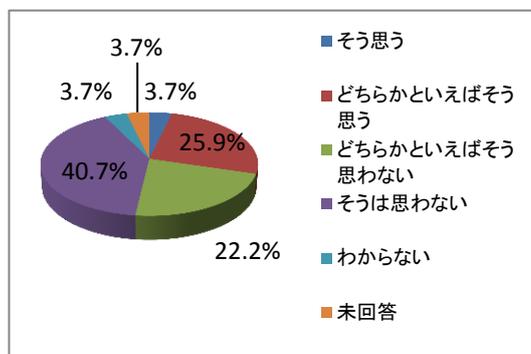
項目	回答数	構成比
そう思う	8人	29.6%
どちらかといえばそう思う	4人	14.8%
どちらかといえばそう思わない	11人	40.7%
そうは思わない	2人	7.4%
わからない	1人	3.7%
未回答	1人	3.7%
計	27人	99.9%



「どちらかといえばそう思わない」が40.7%で最も高い割合となっており、「そうは思わない」を合わせた「思わない」は55.5%と半数以上の割合となる。一方で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「思う」は44.4%となっている

#### 問10. 家庭、地域社会、職場などにおいて女性の人権が尊重されていない（例えば、セクハラ、家庭内暴力などがある）と思うことがありますか。

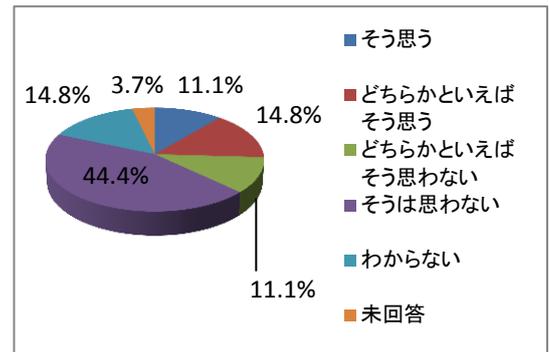
項目	回答数	構成比
そう思う	1人	3.7%
どちらかといえばそう思う	7人	25.9%
どちらかといえばそう思わない	6人	22.2%
そうは思わない	11人	40.7%
わからない	1人	3.7%
未回答	1人	3.7%
計	27人	99.9%



「そう思わない」が40.7%で最も高い割合となっており、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「思わない」は62.9%と6割以上となる。一方で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「思う」は29.6%と約3割となっている。

問 1 1. あなたの職場、或いは周りの職場環境において、フレックスタイム制や短時間労働などの労働時間制度、育児・介護休業など、ライフスタイルに合った働き方や仕事と家庭の両立ができる働きやすい労働環境がつけられていると思いますか。

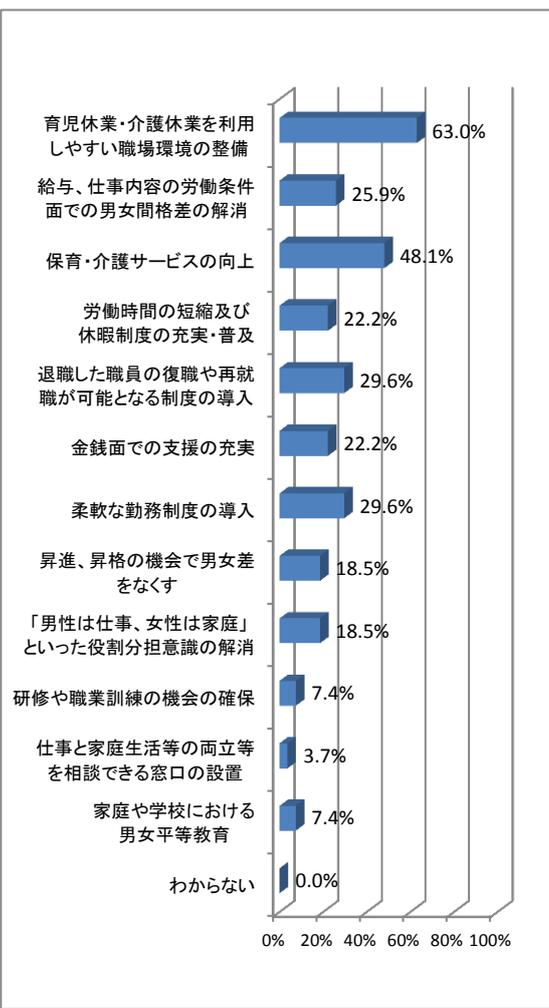
項目	回答数	構成比
そう思う	3人	11.1%
どちらかといえばそう思う	4人	14.8%
どちらかといえばそう思わない	3人	11.1%
そうは思わない	12人	44.4%
わからない	4人	14.8%
未回答	1人	3.7%
計	27人	99.9%



「そう思わない」が44.4%で最も高い割合となっており、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「思わない」は55.5%で半数以上の割合となる。一方で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「思う」は25.9%となっている。

問 1 2. 男女が共に仕事と家庭・社会活動の両立を可能にしていくためにはどのようなことが必要だと思えますか。当てはまるものを3つ選んでください。

項目	回答数	構成比
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備	17人	63.0%
給与、仕事内容の労働条件の面での男女間格差の解消	7人	25.9%
保育・介護サービスの向上(保育・看護施設の充実や保育・介護時間の延長など)	13人	48.1%
労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及	6人	22.2%
育児や介護のために退職した職員の復職又は再就職が可能となるような制度の導入	8人	29.6%
金銭面での支援の充実(出産一時金や育児休業・介護休業中の手当の増額など)	6人	22.2%
柔軟な勤務制度の導入(在宅勤務やフレックスタイム制など)	8人	29.6%
昇進、昇格の機会を男女差をなくす	5人	18.5%
「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消	5人	18.5%
研修や職業訓練の機会の確保	2人	7.4%
仕事と家庭生活等の両立等の問題について相談できる窓口の設置	1人	3.7%
家庭や学校における男女平等教育	2人	7.4%
わからない	0人	0.0%
計	63人	



「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」が63.0%で最も高い割合となっている。